

## 「体育理論」の授業設計力・授業実践力の育成

保健体育・日野克博

### 1. 授業の概要とねらい

「保健体育科教育法Ⅳ」は，中学校教諭第一種免許状（保健体育）の取得に必要な科目であり，保健体育科教育の目標・内容・方法を総合的に学習することになっている．本授業は3年生後期に開講され，これまでの「保健体育科教育法Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ」並びに附属学校での教育実習の経験を踏まえ，よりよい体育授業を実現するための教材研究や授業改善のための具体的な方法を身につけることを目的にしている．

本年度は，保健と体育理論の授業づくりに焦点をあてた．保健体育科では，グラウンドや体育館での運動学習が中心となるが，保健と体育理論は教室で座学中心の授業になる．学習指導要領に基づき，授業設計，教材開発，授業実践の力を身につけ，教室でする保健体育科の授業設計力・授業実践力を身につけることが教育法Ⅳのねらいである．本報告では，体育理論の授業づくりを中心に，そのねらいと授業成果について報告する．表1は本授業のスケジュールを示している．なお，第2～7回は保健分野の授業であり，第8回以降の授業を報告の対象とする．

表1. 保健体育科教育法Ⅳのスケジュール

第1回	教育実習のふり返り
第2回	保健分野（教材研究）
第3回	保健分野（教材研究）
第4回	保健分野（模擬授業）
第5回	保健分野（実地指導講師）
第6回	保健分野（模擬授業）
第7回	保健分野（模擬授業）
第8回	保健・体育理論（省察・学習指導要領）
第9回	体育理論（教材研究）
第10回	体育理論（教材研究）
第11回	体育理論（模擬授業）
第12回	体育理論（省察と授業改善）
第13回	体育理論（模擬授業）
第14回	体育理論（模擬授業）
第15回	まとめ

### 2. 授業の工夫

体育理論の授業づくりにあたって，学習指導要領から指導内容を理解し，単なる知識の伝達にならないように，生徒が意欲・関心をもって思考・判断しながら学習に取り組む授業づくりを体験的に学習させることにした．

#### 1) 学習指導要領を読み解く

体育理論の授業づくりの前提として，学習指導要領の分析を行った．具体的に，学習指導要領解説の記載事項を例にあげ，指導内容の読み取りと，中学・高校の指導内容の体系性について理解させた．ワークシートに従って，「〇〇を理解する」とある場合は必ず授業で取り扱わなければならないこと，「〇〇についても触れる」とある場合は余裕があれば他と関連させて指導する等，留意すべき点を解説し，模擬授業で実施する領域の学習指導要領の内容分析と理解を深めさせた．

#### 2) 授業（教材）を構想し，実践する

体育理論の模擬授業（マイクロティーチング）を導入した．4～5名のグループを6班づくり，保健と体育理論の模擬授業（30分）を1回ずつ実践させるようにした．指導案や教材はグループで作成し，必ずどちらかで1回は授業者を経験することにした．模擬授業のふりかえり（省察レポート）を授業ごとに各自で提出させ，授業改善のための情報として学生へフィードバックした．

#### 3) テストを作成して，理解度を確認する

模擬授業の内容が生徒（生徒役）に確実に伝わっているか，模擬授業の内容に合わせてテスト問題を作成させた．テスト問題の意図や作成方法について解説し，グループごとに模擬授業の授業づくりに合わせて作成し，模擬授業後，直ちにテストを実施し，模擬授業の内容の理解度について，各グループで評価させるようにした．

### 3. 授業のふりかえりと学生の評価

模擬授業と省察を繰り返しながら授業改善を図り、授業づくりのポイントを理解させていった。まとめの授業（15回目）では、本授業の振り返りを行った。表1はアンケート、表2は自由記述による授業の理解度の評価（抜粋）である。

表1. 授業内容に関する学生の評価

設問	(受講生 29名)
Q1.学習指導要領及び解説の内容を踏まえた授業づくりの考え方を理解できた	A:12名(41%) B:17名(59%) C:0名 D:0名
Q2.指導内容を精選し、明確にする必要性を理解できた	A:19名(66%) B:9名(31%) C:1名(3%) D:0名
Q3.指導と評価の時期を考える方法を理解できた	A:4名(14%) B:19名(66%) C:6名(21%) D:0名
Q4.指導内容の面から単元全体をイメージする方法を理解できた	A:9名(31%) B:19名(66%) C:1名(3%) D:0名
Q5.作成をとして、学習指導要領及び解説の内容の構造や読み方がわかり、指導内容について理解できた	A:20名(69%) B:9名(31%) C:0名 D:0名

注) 評価 A:思う, B:どちらかというと思う  
C:どちらかというと思わない, D:思わない

表2. 理解を深めたこと新しい発見

- ・ <学習指導要領>学習指導要領を読むときは、理解することができるや触れる程度にしておくなど、文末に気をつけて読む必要があることを知った。
- ・ <導入の工夫>どの授業においても導入でいかに生徒の興味を引き出すことができるかが大切になってくると感じた。
- ・ <発問の重要性>教師が説明するだけの知識の伝達の授業ではなく、子どもたちに考えさせるのであれば発問が重要になる。発問をいかに工夫するかで授業の展開は大きく変化する
- ・ <教材の設定>VTR や画像など、生徒の授業に対する興味を引くことが大切である。生徒目線の教材づくりが大切である。また、授業内容とマッチしたものを選ぶ必要がある。
- ・ <テストの作り方> 教えたことだけを確認するのではなく、学習指導要領の内容を理解できたかを確認させることが大切だと知った。
- ・ <体育理論の意義>体育の教育的意義など、体育理論で学習したことを他の授業でも活かしていくことが大切だと感じた。

### 4. 授業の成果と今後の課題

本授業では、体育理論の授業づくりを通じて、教室（座学）で行う体育授業の授業設計・授業実践の力量形成をねらいにしていた。特に、指導内容を明確化させるために学習指導要領の分析と、学習の実現状況を把握するための評価の方法について、詳しく取り上げ指導した。

表1の結果から「指導内容を精選し、明確にする必要性」や「学習指導要領及び解説の内容の構造の読み取り方」の評価が高くなっていた。表2の自由記述においても約半数が、この授業で理解を深めたことや新しい発見として、「学習指導要領」「授業の導入」「発問の工夫」に関する内容をあげていた。

体育理論は、現行の学習指導要領から内容が新しくなった領域であり、学生自身も授業を受けた経験が少なく、授業のイメージを持っていなかった。そのため、授業づくりのプロセスとして、学習指導要領に基づきながら体育理論の必要性やねらい、指導内容の位置づけ等を解説し、それに基づき模擬授業を構想させたところ、学習指導要領の理解につながったと考えられる。また、教室（座学）で行う体育授業として、生徒の立場からの授業づくりの必要性を学生自らが実感し、導入の工夫や発問の必要性について本授業を通して理解を深めていったといえる。

本授業の課題として、授業改善に関する学生からの意見として以下のようなものがあげられた。

- ・ 附属校での教育実習前に、この授業を受講したかった
- ・ 模擬授業があつてよかったが、再度、リベンジする機会が欲しかった
- ・ 教員からのフィードバックがもう少し欲しかった
- ・ これまでの教育法に比べて、質の高い授業づくりができたと思う
- ・ 自らがテストを作成したことで、指導内容をしっかり考えることができた
- ・ グループで指導案を作成したが、一人一人が指導案を作成してもよかった
- ・ 授業後の振り返りとともに、授業前にポイントや目標を持たせると、よりレベルの高い振り返りになると思う。

これらは、授業改善のための有益な情報となる。学生からこういった意見がでてくるのは、学生自身が授業に真摯に取り組んでおり、より高い次元の学びを求めているからと言える。次年度の授業改善に活用し、授業の質の向上に努めたい。